

タイ

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向

5. ビジネス機会の方向性仮説

6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

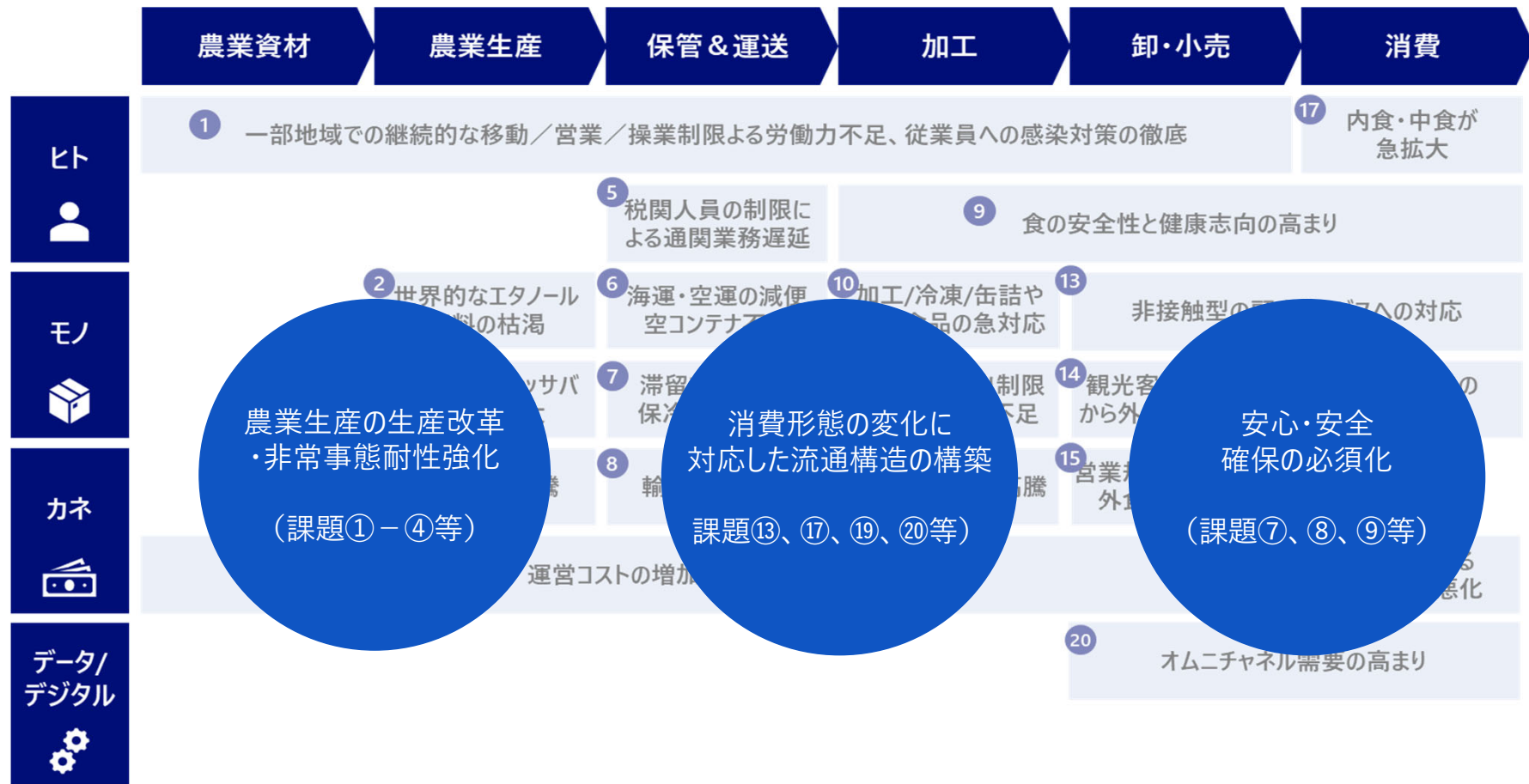
5. ビジネス機会の方向性仮説 5.1 タイにおける3つのKey Issues

5.1 タイにおけるFVC上の課題サマリ

■ 「3.1 タイにおけるFVC上の課題サマリ」にて把握した20の課題は、大きく3つのKey Issuesに構成される

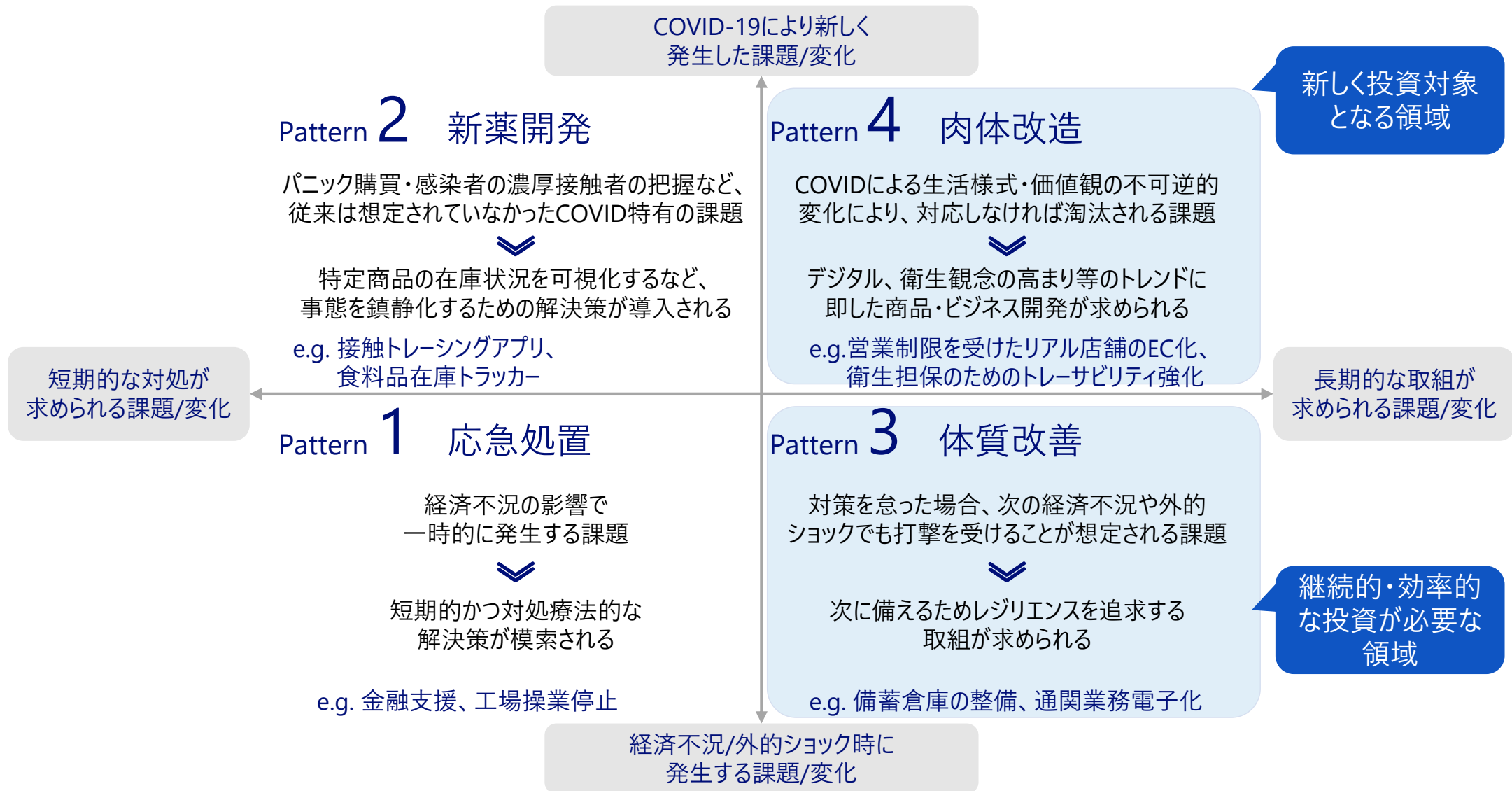
- 農業生産の生産改革・非常事態耐性強化（課題①～④等）
- 消費形態の変化に対応した流通構造の構築（課題⑬、⑰、⑲、⑳等）
- 安心・安全確保の必須化（課題⑦、⑧、⑨等）

COVID-19に影響により顕在化・加速が進んだタイにおけるFVC上の課題



5. ビジネス機会の方向性仮説 5.2 注力する課題分類「肉体改造と体質改善領域への投資」

COVID-19により発生した課題を、解決期間と問題の種類に基づき課題に対する対応策・ソリューション領域を4パターンに分類。今後発展が見込まれる「肉体改造」と「体質改善」への投資が特に求められる



参考) 課題と対応策・ソリューション領域の整理方法 (4パターンの分類)

対応策・ソリューションの分類

X軸	左側象限が短期的な対応が求められる課題/変化を、右側象限が長期的な取組が求められる課題/変化を表している。
Y軸	上側象限がCOVID-19により新しく発生した課題/変化を、下側象限が経済不況/外的ショック時に発生する課題/変化を表している。

■ パターン1：応急処置

経済不況の影響で一時的に発生する課題で、短期的かつ対処療法的な解決策が模索される領域。ソリューションの例は金融支援、工場操業停止などが該当する。

■ パターン2：新薬開発

パニック購買・感染者の濃厚接触者の把握など、従来は想定されていなかったCOVID特有の課題で、特定商品の在庫状況を可視化するなど、事態を鎮静化するための解決策が導入される領域。ソリューションの例は接触トレーシングアプリ、食料品在庫トラッカーなどが該当する。

■ パターン3：体質改善

対策を怠った場合、次の経済不況や外的ショックでも打撃を受けることが想定される課題で、次の外的ショックに備えるためレジリエンスを追求する取組が求められる領域。ソリューションの例は備蓄倉庫の整備、加工工程の機械化などが該当する。

■ パターン4：肉体改造

COVIDによる生活様式・価値観の不可逆的变化により、対応しなければ淘汰される課題で、デジタル、衛生観念の高まり等のトレンドに即した商品・ビジネス開発が求められる領域。ソリューションの例は営業制限を受けたリアル店舗のEC化、衛生担保のためのトレーサビリティ強化などが該当する。

5. ビジネス機会の方向性仮説 5.3 「肉体改造と体質改善」が求められる背景

グローバルでみると、以下のような事象が今後加速すると想定される

 : コロナ後に加速する事象

マクロ環境変化



政治・経済・地球環境

- E-1 グローバル化の進展
- E-2 食料生産地・収穫量の変化
- E-3 資源・食料問題の深刻化
- E-4 脱プラ要請の高まり



人口動態

- G-1 人口減少
- G-2 都市圏への集中・地方自治体消滅
- G-3 高齢者や移民の労働力活用



社会

- S-1 超高齢化社会への突入
- S-2 知的労働の更なる進行
- S-3 衛生状態の更なる改善
- S-4 労働形態の多様化



技術革新

- I-1 自動化技術の進化
- I-2 ライフサイエンス技術の進化
- I-3 バーチャルとリアル融合
- I-4 情報取得の簡易化

消費 及び 競争環境の変化



消費者

- 消-1 ヘルシー志向
- 消-2 冷蔵・保存食需要の増加
- 消-3 高齢化・要介護者の増加
- 消-4 購買・消費のスマート化
- 消-5 モノ⇒コト消費
- 消-6 ニーズの多様化
- 消-7 老後期間の延長
- 消-8 新たな喫食シーンの登場



食品メーカ

- 食-1 機能食・完全食
- 食-2 代替肉・タンパク質
- 食-3 サブスクリプション
- 食-4 家電連携
- 食-5 保存技術の高度化
- 食-6 ライフログとの連携
- 食-7 パーソナライズ
- 食-8 味・味覚のDB化
- 食-9 生産自動化
- 食-10 リアル店舗への進出



農業

- 農-1 トレーサビリティ
- 農-2 遺伝子組み換え食品
- 農-3 環境農業
- 農-4 地産地消
- 農-5 農業のオートメーション化



流通・小売・外食／中食

- 流-1 レシピサイト・動画
- 流-2 外食のEC・デリバリー進出
- 流-3 物流効率化・共同配送
- 流-4 自動最適物流
- 流-5 フードロス対応
- 流-6 デジタル・サプライチェーン
- 流-7 ミールキット
- 流-8 3Dプリンティング

5. ビジネス機会の方向性仮説 5.3「肉体改造と体質改善」が求められる背景

先進国では、内・中食シフトで、内食では購買～料理・食事の流れの変化や中食のワガママ化が進展
健康や免疫、カロリー効率に注目が集まる

コロナ禍で発生した事象

生活者の価値観・ライフスタイルの変化

食生活の変化

活動選択肢の縮小

外出自粛や店舗休業による
生活自由度の低下

グローバルサプライチェーンの
分断

生活者の行動歴の可視化・
ライフログの管理加速

経済不安の拡大

経済・消費の落ち込み

環境／協調意識の拡大

共通敵に対する連帯感・
仲間意識の醸成

社会環境・店舗環境の
改善意識の高まり

巣ごもり充実・ 再現志向

- 外でやっていたことを在宅で
済ませようとする

健康志向

- 巣ごもりにより健康や運動
の重要性を再認識する

予防志向

- コロナや未知のウイルスに感
染するリスクを防ごうとする

家族志向

- 家族の大切さを再認識し
共有時間を充実させる

節約志向

- 経済停滞の影響で節約を
意識する

デジタル・ バーチャル志向

- SNSで配信される動画・
レビューに影響を受ける

外食消費が縮小し、デリバリーが拡大

外食

外出自粛・移動制限により
大幅に縮小、内・中食にシフト



内食・中食が急拡大

内食

計画的まとめ買い＋家族で料理

1週間の献立を
決めて...



ECやスーパーで
まとめ買い...



家族で料理・
食事



中食

“おひとりさま”の中食利用 中食ニーズの多様化・ワガママ化



食の 選び方 の変化

健康食・ 免疫食



高コスパ食

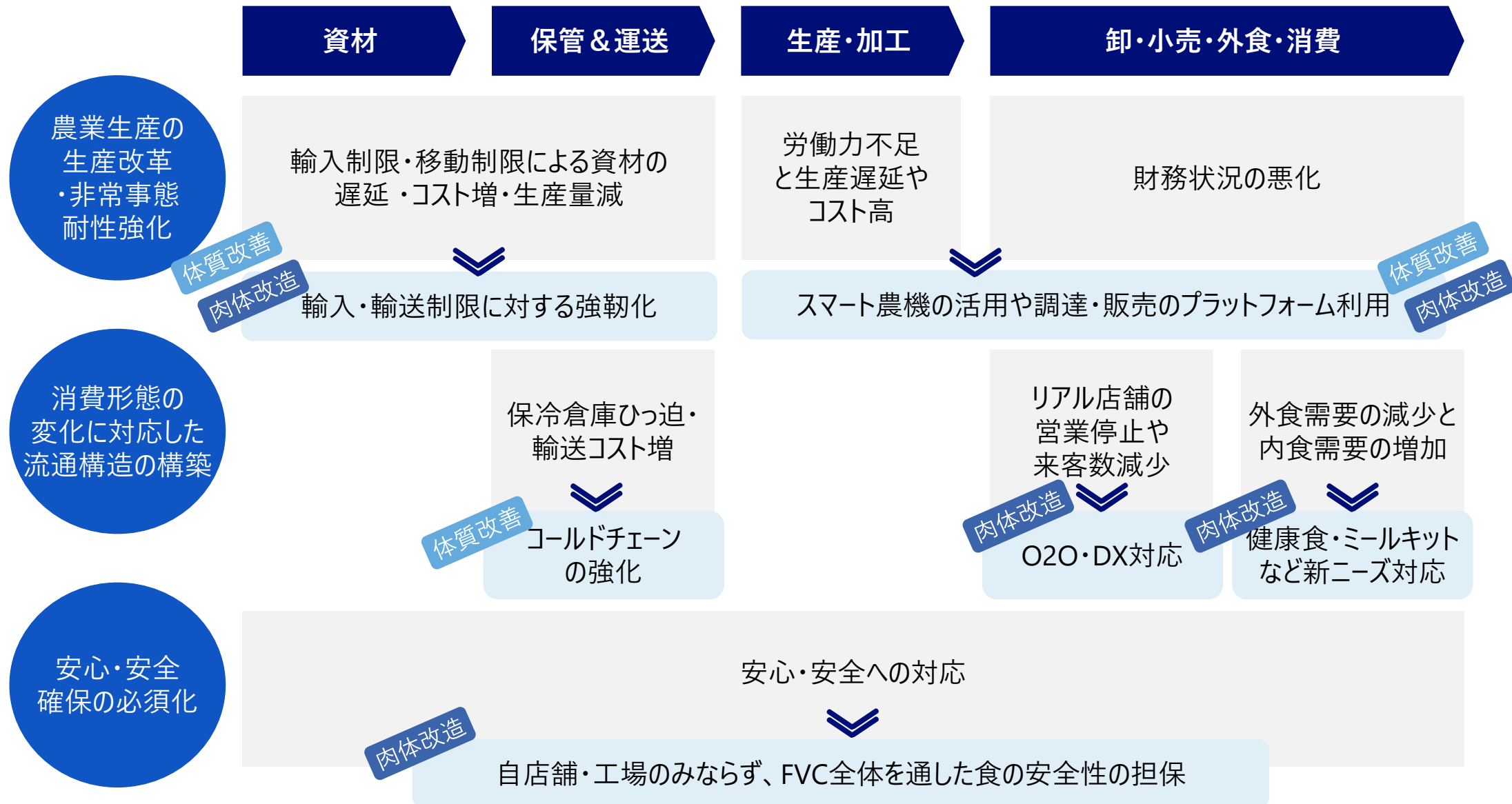


保存食



5. ビジネス機会の方向性仮説 5.4 主要課題の対応方向性

タイにおいてはCOVIDにより発生した課題・変化を起点に、
「体質改善」・「肉体改造」に向かう取り組みが強化されていくと想定される



5. ビジネス機会の方向性仮説 5.5 投資が進む可能性のあるテーマ例

結果として、タイにおいては下記のようなテーマで投資が進む可能性がある



タイ

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説

6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.1 投資領域に対する日本のソリューション

投資領域に対するソリューションとして以下が挙げられる

■ 課題1：農業生産の生産改革・非常事態耐性強化

- 農業資材・保管&輸送工程における輸入制限・移動制限による資材の遅延・コスト増・生産量減などの課題に対しては、輸入・輸送制限に対する強靱化が必要と考えられる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば資材の現地生産化・垂直統合、調達先の多角化、冷凍・保存技術の高度化などの他（体質改善領域）、物流業務の電子化が考えられる（肉体改造領域）。
- 農業生産工程における労働力不足と生産遅延やコスト高といった課題に対しては、スマート農機の活用が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばドローンやIoT技術等の活用など農機のスマート化が挙げられる（肉体改造領域）。
- 卸・小売・外食・消費工程における財務状況の悪化に対しては、調達・販売プラットフォームの利用などによる農家の市場アクセスへの改善が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばオンラインプラットフォームによる直販化・製販連携が考えられる（肉体改造領域）。

■ 課題2：消費形態の変化に対応した流通構造の構築

- 保管&輸送・販売工程における保冷倉庫ひっ迫・輸送コスト増の課題に対しては、コールドチェーンの強化が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば簡易型倉庫などフレキシブルな設備、温度維持管理技術で産地・消費地を繋ぐより高い品質への対応が挙げられる（体質改善領域）。
- 卸・小売・外食・消費工程におけるリアル店舗の営業停止や来客数減少の課題に対しては、O2O・DXなどによる対応が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばスマートリテール、リアル店舗のEC・デリバリー進出などが挙げられる（肉体改造領域）。また、外食需要の減少と内食需要の増加の課題に対しては、健康食・ミールキットなど新ニーズ対応といった内食需要対応が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば完全食・機能食・健康食開発、ミールキット・スマートキッチン、レシピサイト・動画が考えられる（肉体改造領域）。

■ 課題3：安心・安全確保の必須化

- 農業資材から卸・小売・外食・消費のFVC全工程における安心・安全への対応に対しては、自店舗・工場のみならず、FVC全体を通して食の安全を担保が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば冷凍・保存技術の高度化の他（体質改善領域）、トレーサビリティの強化、検査工程のスマート化、コンタクトレス決済などが挙げられる（肉体改造領域）。

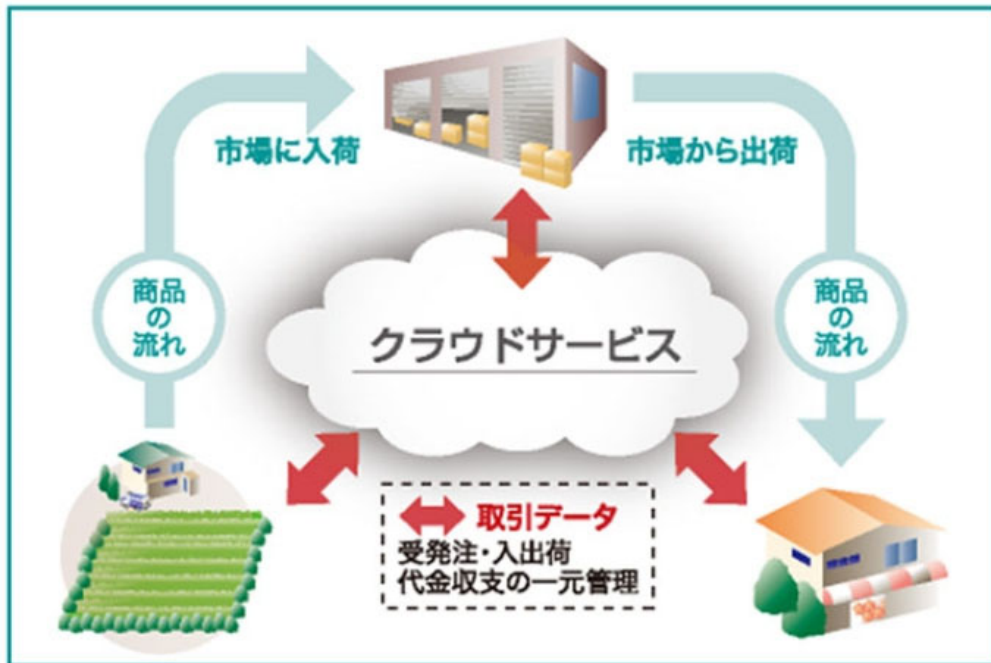
6. 日本が貢献できる領域仮説 6.1 投資領域に対する日本のソリューション 参考) 日本が貢献できる投資領域に対するソリューション例



6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

花き関連データをEDIシステムで管理することで、データ入力を省人化

EDI管理によるデータ入力省人化



基本機能

・受発注 ・入荷 ・相対 ・Web ・セリ連動 ・分荷 ・ラベル ・スマートフォン ・仕切書 ・販売伝票
・仮伝発行 ・市況報告 ・売掛管理 ・奨励金 ・買掛・受託支払い管理 ・電子帳票 ・統計 ・日計表
・月計表 ・JFコード ・バーコード ・EDI ・自動FAX

オプション機能

・表示セリ ・自動セリ ・自動分荷 ・仲卸支援

体質改善 肉体改造

資材	保管 & 運送	生産・加工	卸・小売・外食・消費
輸入・輸送制限に対する強靱化	スマート農機の活用や調達・販売のプラットフォーム利用		
コールドチェーン強化	O2O対応	内食需要対応	
FVC全体を通じた食の安全担保			

人手を介さない物流バーコードラベル

- 各種コード（日本花き取引コード、卸売会社コード、原産地コード等）の商品への紐づけは、従来は手書き出荷伝票から出荷情報データ入力を行うという人力での作業
- EDI（Electric Data Interchange：電子的データ交換）により人手を介さない物流バーコードラベルを発行

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

直販モデルの構築により、地産地消化を促進しつつ、農家の市場アクセスを改善

道の駅（直販モデル）

2018年のキャンペーン



体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化

スマート農機の活用や調達・

販売のプラットフォーム利用

コールドチェーン強化

O2O対応

内食需要対応

FVC全体を通した食の安全担保

農産物の直売所

- 日本には「道の駅」と呼ばれる直販市場が存在。生産から流通までが垂直統合されたモデル
- タイでは活用実績があり、駐車場 やトイレ、飲食店、情報
- 施設、売店を完備し、24 時間営業するモデルを構築。売店では、一村一品（OTOP）製品、地方の特産品などを販売